



公益財団法人 日本生態系協会

活動指針

美しい自然の生態系があって初めて、私たちの健全な生活ができることが、世界の共通の理解となり、自然を守り再生することがとても大切な時代となりました。当協会は、そうした自然と共存する美しくにやまちをつくる方法を、市民や企業、そして行政などに提案しています。



団体の特徴

- 1992年、全国各地で活動している環境保護団体の結束のもとに設立されました。
- 自然と共存するくづくりのための政策を提案しています。
- 自然を再生する手法など生物の多様性に関する調査・研究を行っています。
- 豊かな自然の土地を買い取って、確実に将来に手渡していくための、ナショナル・トラスト活動を行っています。
- 公益財団法人として認定を受けています。

主な活動内容

- 政策の提案：国への政策の提案や、各地の魅力を生かした地域の計画づくり。
- 環境教育：全国学校・園庭ビオトープコンクールを通じた自然体験や環境教育の推進。
自然を守り育てる技術者「ビオトープ管理士」の認証や、乳幼児の自然体験を促す「こども環境管理士」の認証。
- 調査研究：自然を再生する手法に関する調査・研究や、自然の価値を測る方法の開発。
- ナショナル・トラスト活動：希少な生きものの生息地や美しい風景など、豊かな自然の土地の買い取り。
- 墓地の運営：自然の保全と再生を目的とした「森の墓苑」の整備と運営。

ご寄附いただいた場合

◆寄附金は寄附金控除の対象になります。

- ・11月下旬頃、寄附受領証・公益財団法人である証明書を郵送します。
寄附金控除を受けるためには、確定申告の際に寄附受領証・証明書を添付してください。

◆活動内容を報告します。

- ・年に1回、寄附金をもとに取得したトラスト地に関するレポートをお送りします。
- ・1年間、会報誌「エコシステム」(隔月発行)をお送りします。

◆「自然の恵みギフト」

- ・年に1回、トラスト地周辺の自然を感じるギフトをお送りします。

団体連絡先

公益財団法人 日本生態系協会

〒171-0021 東京都豊島区西池袋2-30-20 音羽ビル
TEL:03-5951-0244 FAX:03-5951-2974
URL: <http://www.ecosys.or.jp/>

ご支援でできること

当商品を通じた寄附金は、「希少な生きものの生息地を買い取り、守っていくナショナル・トラスト活動」に活用します。

ナショナル・トラスト活動とは

日本の美しい風景や、野生の生きものの生息地などを買い取り、守っていく活動です。

100年前に英国で発祥し、日本でも、知床、鎌倉、天神崎、柿田川など50以上の地域で取り組まれています。国や自治体だけでは守りきれない場所を、市民が自発的に守っていく公益的な活動として、日本の自然を守る上で、重要な役割を担っています。当協会では、(公社)日本ナショナル・トラスト協会と連携し、特に「希少な生きもの」をテーマにしたナショナル・トラスト活動を進めています。

希少な生きものを守るナショナル・トラスト活動

取得地の選定

取得地は、対象種の生息に適した地で、地権者の了解が得られている土地としています。

土地取得の資金

寄附金は、土地購入のための基金として積み立て、それぞれを対象地取得のための目標額に達し次第、緊急性などに応じて順次購入していきます。

トラスト地の保全・管理

取得後は、地域の活動団体や自治体とも連携しながら、これらの種の生息に適した環境が守られるよう保全や管理を行います。

※第一弾として以下の3種を選んでいきます。これら以外にも絶滅の危機にある生きものは多く、今後、保全対象は増やしていく予定です。

守りたい3種の生きもの

アマミノクロウサギ(鹿児島県・奄美大島) 絶滅危惧1B類・特別天然記念物

世界で奄美大島と徳之島だけに生息する貴重なウサギで、「生きた化石」と言われ原始的な形態を残しています。島の開発や、ハブ退治のために入れたマングースなどの影響で個体数は減少を続けており、絶滅が心配されています。



写真:常田 守

●アマミノクロウサギの特徴

大木のある深い森や溪流などの開けた場所など多様な環境を好み、植物の葉や実をエサとしています。一般的なウサギに比べ、耳や足が短く、頻りに鳴き声をあげます。

●取得対象地

アマミノクロウサギの生息に適した環境の残る奄美大島の山林・原野を中心に買い取りを進めます。

北限のブナ林(北海道・黒松内) 天然記念物

世界で長崎県の対馬のみ生息する野生のヤマネコ。1970年頃までは、島のあちこちで見られましたが、すみかとなる森の開発や交通事故などにより、今ではわずか100頭ほどまでに減少し、絶滅の危機に瀕しています。

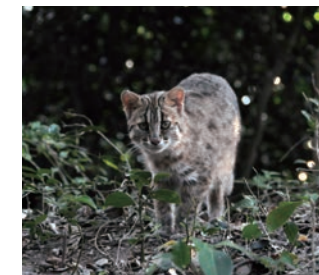


写真:山村 辰美

●ツシマヤマネコの特徴

家猫より少し大きいほぼ同じくらいの大きさで自然度の高い山林や、田畑、水辺など様々な環境をします。年間を通じネズミを食べますが夏は昆虫、冬は鳥類も食べています。

●取得対象地

ツシマヤマネコの好適生息環境である、対馬北部の山林を中心に買い取りを進めます。



写真:斉藤 均

日本のブナ自生の北限とされる北海道・黒松内町のブナ林。最終氷期以降、約1万年かけて、黒松内町付近まで北上してきました。

●ブナ林の特徴

ブナは日本を代表する樹種で、南は鹿児島県大隈半島から、当地まで連続的に分布しています。近年の地球温暖化によるブナ北限の動向が注目されています。

●取得対象地

近年、木材チップ用に土地が売却されるケースも増えており、町内に残るブナ林の買い取りを進めます。